

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900337		
法人名	有限会社 大原ウェルフェア		
事業所名	グループホーム 大原苑 (1棟)		
所在地	〒838-0142 福岡県小郡市大板井391番地36 TEL 0942-73-1218		
自己評価作成日	令和05年06月21日	評価結果確定日	令和05年08月01日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年07月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で出来る事も限られていましたが、利用者の皆様には普段通りの生活をしていただけるように支援しています。当苑は食を大事に考えており、郷土の味やその季節ごとの食材にこだわり提供しています。また保育園と隣接しており、園庭で元気に遊ぶ子供たちから元気をもらっています。職員の勤続年数も長く良いチームワークだからこそその介護が出来ているのではないかと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や廊下に掲げ、朝の申し送り時や会議の前に唱和して全員で共有している。理念を職員全員で実行できるように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として公園や公民館の掃除には必ず参加している。残念ながら利用者の参加は来ていない。コロナ禍でも保育園から毎月お誕生メッセージが届き玄関先で元気な園児達の顔を見ることが出来た。散歩の時は近所の方と挨拶を交わし話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区の児童民生委員より施設見学と認知症について学びたいと依頼が来ている。コロナの状況を見て行う予定にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議では苑内の取り組みや利用者状況、ヒヤリハット、事故報告書などの事例を報告し参加者全員から意見や質問を受けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿支援課、生活保護課、社協の担当者とは日頃より情報交換を行ったり相談してアドバイスを頂くことも多い。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度「身体拘束適正化委員会」を行い話している。危険防止のためやむを得ない拘束に関してはその都度ご家族の同意をもらうが、必要がなくなればすぐに中止している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや資料を参考に研修を行い、職員の意識を高め些細な事も見逃さず、日常的に防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加後に苑内での研修をして学ぶ機会を設けている。現在も日常生活支援事業を利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を取り説明を行い、言い易い関係性を築けるようにしている。改定時は家族会の時に説明を行い同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活で職員は利用者から意見や要望を聞くようにしている。また面会時には必ず話をして内容を職員間で共有している。また苑の携帯にメールで不安なことや意見要望を送って来る家族もある。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議において様々な意見や要望が出ている。また年に一度個別で職員面談を実施してより良い運営と改善につながっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士資格取得に向け勤務の調整や実務者研修費用や試験費用などの補助なども行っている。資格取得後にパートから正規職員へ昇格し意欲的に働いている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集では年齢性別経験等は問わずチームワークを大切にしている。職員一人一人の能力や得意なことが発揮できるような働き方が出来て、仕事に生きがいを持って楽しく生き生きと勤務できるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を守る介護の在り方を職員会議で話をしている。外部研修に参加して内部研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者のケアを統一するため、その都度話をしている。また会議や申し送り時にも話をしている。外部研修は職員全員に回覧して参加したい人を優先した勤務にしている。またその内容を内部研修している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居相談者の情報を得るために他の施設に訪問して話をしたり聞いたりすることもある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾けコミュニケーションをとることで本人の状態を把握し安心して生活ができる様に支援している。また家族や関係者と情報交換を密に行い本人の状態やニーズを知るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に入院先や自宅、通っているデイサービス等に行き家族や関係者から話を聞いている。コミュニケーションを取りながら関係性を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で現況と家族、本人の意向を把握して、関係者や医療機関等の意見も参考にして、サービス利用を開始している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態を把握し尊重し笑顔で声かけしながら、関係性を作って行くようにしている。利用者にわからない事を聞いて教えてもらうこともある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑の携帯で本人の様子を写真で送ったり、本人とテレビ電話をしてもらっている。状態の変化や些細なことも連絡をして意見を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のお祝いのため自宅に帰ったり、コロナ禍の面会制限の中でも工夫して顔を見に来てもらっていた。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の移動はあまりせず、利用者同士が会話がなくても安心して過ごせる居場所が出来る様に支援している。手伝いも利用者同士で役割を決めお互いを思いやっている姿が見られる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、入院先に面会に行ったり、電話で相談を受けることもある。退去された方のご家族からの紹介で入居相談に来られる方もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の暮らしの中の会話から利用者の思いや意向を聴きとり家族に相談し職員間で共有してサービスに反映させている。意向表出が困難な利用者には寄り添い表情などを観察しながら、利用者の思いや意向を理解できるように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とその家族、入居に関わった関係者から情報を集めるようにして安心して生活が出来る様に支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で利用者の情報を共有して一人ひとりが一日を有意義に過ごせるように支援している。出来る事はなるべくして頂き意欲が出るような声かけに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話で家族の意見や要望を聞き、職員会議では参加者が意見を出し合い介護計画を作成している。利用者の状態変化があるときは、家族や主治医と話し、その都度見直ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌の他に、日々の記録は個人記録に記入して情報共有につなげている。ケアプランにも反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病院に付き添うことが原則であるが、仕事や家族が遠方で無理な時は代わりに付き添ったり送迎などを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園からお誕生メッセージDVDが毎月届き楽しみに観ている。また移動図書から貸し出しの本を読む方もいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が訪問診療を受けていて月に2回の診療日に本人の状態をきちんと伝えてより良い診療が受けれるようにしている。訪問診療の医師とは日頃より密に連携が取れているため家族も安心している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の出来事の中で医療的なことも含めて職員間で介護と看護情報を共有している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時、苑での生活ぶりなど伝えている。退院に向けては相談員や担当看護師から情報をもらい、利用者にも面会をして状態を把握している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはまだ行っていないが重度化した場合は、病院に入院か他施設へ転院となることもある。訪問診療の医師や看護師、家族も含め相談してより良い生活が出来る様に支援している。また入居時には重度化した場合の説明も行い理解をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応については、一人ひとりの病歴もありマニュアル化しているし、病気の変化についての対応についてその都度看護師からの指導も受けている。事故発生時の訓練も定期的に行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練を消防団と地域の消防団員の方と年一回行っている。通報訓練・避難訓練・消火器の使い方・避難場所の確認等もしている。定期的に自主避難訓練も行い繰り返し行うことの重要性を感じている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性や人格を尊重しプライバシーを守る介護を心がけている。職員会議や毎日の申し送りなどで気になることは話をしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を素直に言えるような雰囲気と職員との関係が出来ている。自己決定が出来ない利用者にもどんなことも聞き表情を見ている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や気分など見ながら、希望に添える過ごし方を支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びを楽しみにされている方もあり支援している。着たい服を家族にお願いして持ってきてもらうこともある。できない方も毎日職員が服装や身だしなみなど気を付けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理方法を聞いたり、味見をしてもらったり感想を聞いている。職員も利用者と同じ献立と一緒に食べている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量と水分量は記録し体調管理している。野菜が多い献立になっているのでなるべく完食してもらえるように工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ほとんどの利用者の口腔ケアに付き添いしている。また訪問歯科の指導も受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりにあった排泄介助を行っている。車椅子の方もできるだけトイレでの排泄を促し失敗が少なくなるように支援している。夜間でも本人の様子を見ながらトイレ誘導している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物を献立に入れたり、水分摂取だけでなく、体操や廊下歩行などそれぞれのケアプランに入れ支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴中は職員と楽しく会話しながら可能な方舟船に浸かりゆっくりできるように心がけている。曜日は決めているがそれ以外の日でも対応できるようにしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調などを見ながら、居室で休んだりテレビを観たり本を読んだりしてゆっくり過ごせるように支援している。見守り声かけしながら居室内の室温など気を付けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用について理解をしている。看護師は主治医と連携し状態の変化については相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事、ドライブ、毎月のレクの参加と、毎日の体操や散歩、塗り絵、読書、工作など一日を楽しみながら過ごせるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節が良い時は苑の周りを散歩したり、お花見ドライブにも出かけている。家族のお祝いで自宅に行かれる方もいた。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に希望の缶コーヒーやジュースを買ってのんでもらったり、冬には焼き芋を買って食べてもらうこともある。欲しいものがあれば家族に相談して、預り金から買うこともある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人所有の携帯電話で家族と自由に話をされる方もいる。また苑の携帯でテレビ電話で顔を見ながら話をしてもらう。年賀状や暑中見舞いは毎年書いてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は天井も高く明るい。また中庭が見え春には花や緑の木々を眺め冬には真っ白に積もった雪を見て季節を感じる事が出来る。エアコンの調整にも気を配り快適に過ごしてもらえるように配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が良い関係性になるように配慮している。車椅子からソファーに座ってもらったり、気分転換に違う席に移動して中庭を見たりされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から仏壇や本棚を持って来られている方や、テレビを持ってきて好きな番組を見たりされている。居室の清掃や換気、温度にも気を付けている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩ける方はいつまでも自分の足で歩いてもらうように支援している。自分でできることはしてもらうが見守り声かけは行い励まし褒め意欲が上がるような対応をしている。		